

令和5年度 事業報告

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現。すべての人が、子どもや子育てについての価値を認め合い、子育てを楽しむ気持ちと互いに支えあう社会が成り立つことを基本において、すべての子どもの権利を保障し、すべての高齢者や障害児（者）と一緒に生活していく社会をめざす。」については、子どもたちが地域の未来を支え築いていく存在であることを認識しながら、今できることを保育園で考えて地域社会と共に実践していくように取り組んだ。今年度より行事なども今までのように行うことが出来るようになり、地域との交流も増えてきた。

子どもの育ちを保障する

(1) 保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供するように努めた。

- ・自分で考えられる力をつける。人との協調性をもち、自主的・積極的に保育に取り組もうとする力をつけるよう、また、困難にも諦めないで取り組もうとする力をつけるよう努めた。
- ・目先の学力より、後伸びする力（非認知能力＝積極性や粘り強さ、リーダーシップやモチベーションの高さといった、数値では図りにくい能力）を大切だと考える保護者が増えるような保育の実践に努めた。
- ・子どもは家庭環境や体験したことが一人ひとり違うので、一人ひとりを大切にし、その子にとって一番良い援助をし、それによって子どもたちの感性や活動が広がり、豊かな体験へとつながっていくような保育を実践し、支援が必要な子どもには、一人ひとり細かい支援ができるよう保育士の配置をした。
- ・医療的ケア児の入所を将来的には考えて行きたい。
- ・保育園の保育と小学校教育との円滑な接続のため連携に努めた。共通の目指す子ども像に向けて話し合いをもち架け橋期のカリキュラムの策定を行った。
- ・行事や小学生と園児が遊びを通して交流をもつことで小学校と、保育園がお互いに理解を深めることができた。
- ・乳児期から青年期まで連続した発達の視点による保育をするために、個々の特性や家庭状況等を密に連絡しあう。また、保護者のサポートも不可欠なので保護者との連携も必要である。

(2) 保育者の資質向上を図る。

・「保育の質は、保育者の質」

乳幼児期の子ども達にとって保育園は生活の場であり、『遊び』は重要な学びと発達のある場である。子ども達は、遊びを通して様々なことを経験しながら、学び、心、体、知、社会性が発達していく。保育者の主要な役割は、その発達を支援することであり、そのために常に子どもが今、何を学んでいるか見極め、最適な関わり方を判断していかなければならない。子どもたちの意見を聞きながら子ども達の発達を促す良い保育（＝質の高い保育）を行うためには、保育者の豊かな人的環境が不可欠であるので日々が研鑽であるという意識を持って保育実践に取り組んだ。

- ・研修などを通して新しい知識・新しい考えを取り入れる必要がある。研修の内容によって参加したい職員がいる時は、参加できるように配慮する。自分の意見を素直にいえる環境があり、また相手の意見も取り入れられる柔軟な心を持つことにより職員同士の向上を目指すことが大事であるので、そのような環境づくりに努めた。その中でも職員会等で職員の意見をできるだけ聞くようにし、反映するようにした。

- ・研修会に参加した職員の報告を元に職員が議論をし、共有化を目指す。職員会で研修した内容を共有するために報告の時間をとった。
- ・キャリアアップ制度を利用して、15回の研修に参加し職務分担で専門リーダーを中心に活動をしていくように取り組んだ。

(3) 職員間の共通理解・信頼関係の構築をいっそう図り、自己課題発見（年1回実施自己課題発見シート活用）に努めた。集計表を見ながら不十分なところについて皆で話し合った。

- ・全国保育士会の「人権擁護のためのセルフチェックリスト～子どもを尊重する保育のために～」を活用して保育者一人ひとりが日々の自分の保育を振り返ると共に職員同士でも話し合いを持った。保育士に余裕がなくなると行動を強要するような関わりをしてしまったり、自分だけでなんとかしようと思いきってしまうことがある。そういった時冷静に一呼吸おけるような環境、また、複数担任では対応を交代するなど環境を整える必要がありこれからの課題である。
- ・職員がお互いの立場を理解し、思いやることが一番大事である。そのためには、それぞれの意見が言えるような雰囲気が必要で、お互い納得できるまで話し合える環境の中で信頼関係を築いていくように努めた。
- ・皆で決めたことについては遵守し、間違っていることは年齢、経験年数にかかわらず、言い合える仲になること。また、指摘されたことは素直に受け止めていくようにすることが必要。
- ・組織の目標達成が第一と考え、自己の損得でなく、どうすることが善いか悪いかの判断ができるように努めた。
- ・全国的な少子化が進む中、園児数が減ってきており、保育園が存続していくためにはどうしていくべきか理事会と評議員会で意見を求めたところ保護者にアンケートをとってみたいということで保育に関するアンケートを実施した。色々な意見がある中、保育園として対応していけるところは検討して取り組んでいく。

(4) 地域貢献に取り組む

- ・ふれあい広場（園庭開放）・・・毎週木曜日（0、1歳児を主に15名程の利用があった。）
看護師により、健康に関わる相談などをしてきた。
- ・自立支援施設との交流は、天候不順の為できなかった。
夏祭り、ふれあい展は、以前のように地域と一緒にいくことができた。
- ・児童相談所・家庭支援センター・保健師・発達支援センターと連携をとり子どもと家庭の支援に努めた。

令和5年度 年間入所人員状況（利用定員90人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳児	3	3	3	4	5	6	7	9	9	9	9	9	76
1歳児	16	16	16	16	15	16	18	18	18	18	18	18	203
2歳児	13	13	13	14	15	16	16	16	15	15	15	15	176
3歳児	12	12	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	147
4歳児	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	171
5歳児	15	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	170
合計	74	74	74	75	76	78	81	83	82	82	82	82	943

※広域入所児童を含む